

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
東北保健医療 専門学校	平成23年3月23日	清水 逸	〒980-0013 仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-745-0001			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人日本 コンピュータ学園	昭和61年10月22日	理事長 持丸 寛一郎	〒980-0013 仙台市青葉区花京院一丁目3番1号 (電話) 022-224-6501			
目 的	本校は、教育基本法・学校教育法・理学療法士及び作業療法士法・社会福祉法及び介護福祉法に基づき、豊かな人間性と深い専門知識を修得させ、もって人類社会の進歩と福祉に貢献し得る人材を育成することを目的とする。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時間又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療分野	医療専門課程	作業療法科	3年(昼)	2,730単位時間 (128単位)	平成23年 文部科学大臣告示 第166号	
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1,560単位時間 (101単位)			1,125単位時間 (26単位)	45単位時間 (1単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	88人	6人	28人	34人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表(有)無 ■成績評価の基準・方法について 評点は100点満点として、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。各科目評価は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点以下)とする。	
長期休み	■学年始め：4月4日 ■夏 季：7月25日～8月21日 ■冬 季：12月24日～1月5日 ■学 年 末：3月21日～3月31日			卒業・進級条件	1) 年間の授業出席時間数が800単位時間以上であり、3年間で2,400単位時間以上であること 2) 全科目を履修する。そして、全科目の評定が「可」(60点以上)以上であること	

生徒指導	<p>■クラス担任制 (有)・無)</p> <p>■長期欠席者への指導等の対応 長期になる前に、早期に個人面談を行い、適切な対応方法を指導する。長期になる場合は、保護者とともに面談を行い、これからの対応を検討し、決定する。</p>	課外活動	<p>■課外活動の種類 各種ボランティア 各種課外授業 個別・集団指導</p> <p>■サークル活動 (有)・無)</p>
主な就職先	<p>■主な就職先、業界 総合病院、精神病院、介護老人保健施設一般病院、リハビリテーションセンター等</p> <p>■就職率※1 95.7%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合※2 95.7%</p> <p>(平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点での情報)</p>	主な資格・検定	作業療法士国家試験受験資格
中途退学の現状	<p>■中途退学者 14名 ■中退率 13.5%</p> <p>平成27年4月1日在学者 104名 (平成27年4月入学者を含む) 平成28年3月31日在学者 90名 (平成28年3月卒業生を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、学業不振、健康上の問題、経済的な問題など</p> <p>■中退防止のための取組 学生の抱えている問題を早期に把握するため、出席状況を毎日確認し、必要性のある学生から、早々に個別面談を実施している。 また、適切な学生サポートを実現するための体制を整備し、支援を行っている。</p>		
ホームページ	URL: http://www.tmc.ac.jp/		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本科の教育課程の編成は、作業療法について知見のある病院・施設、関連団体、学識経験者などが委員として参画する教育課程編成委員会を設置し、業界の人材の専門性に関する動向、地域産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、教育課程等の改善に関わる意見を交換することで、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 28 年 4 月 1 日現在

名 前	所 属
本地 光弘	宮城県作業療法士会 監事、東北労災病院 主任作業療法士
高橋 晴美	東北大学病院リハビリテーション部 副技師長
清水 逸	東北保健医療専門学校 校長
上遠野 純子	東北保健医療専門学校 教務課長
淀川 裕美	東北保健医療専門学校 教員
稲垣 陽子	東北保健医療専門学校 教員
藤井 貴	東北保健医療専門学校 教員
酒井 良隆	東北保健医療専門学校 教員
矢野 大輔	東北保健医療専門学校 教員

(開催日時) 平成 27 年度

第 1 回 平成 27 年 9 月 9 日 16 : 00~17 : 40

第 2 回 平成 28 年 3 月 28 日 17 : 30~19 : 00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

臨床実習は、実習施設(協力病院・施設)において、直接、対象者(患者・利用者さん)に向かい合う非常に責任をもつ職業実践的な教育である。学校の支援と教授、実習施設の支援と臨床実習指導者の指導の下に、学生は、基本的な評価・治療・記録等の経験をする事になり、この過程の中で医療専門職として望ましい態度や行動を養うことになる。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
見学実習	<p>作業療法の実際を体験することが目的であるが、以下の 2 つの目標で実施する。</p> <p>1) 【早期体験型実習】 保健医療福祉の現場での作業療法士の役割や責任を積極的に受け入れ、価値観を作る。</p> <p>2) 【人間形成型実習】 ケアチームの一員として、適切な態度で接することを学ぶ機会として体験し、自分自身の修正すべき態度の課題に取り組んでいく体験として位置付ける。</p>	<p>①医療法人社団 東北福祉会 介護老人保健施設 せんだんの丘</p> <p>②医療法人 松田会 介護老人保健施設 エバーグリーンソルガヤ</p> <p>③医療法人 康陽会 中嶋病院</p> <p>④日本赤十字社 石巻赤十字病院</p> <p>⑤医療法人 啓仁会 石巻リハビリ病院</p> <p>など 計 40 施設</p>

臨床実習Ⅰ	<p>【基本的臨床実習1】作業療法の検査を実施することを目標として、以下の3つの目標で実施する。</p> <p>1) 対象者から必要で適切な情報を収集し、評価をまとめることができる。適切に評価をまとめることができる。作業療法計画を立案できる。</p> <p>2) 保健・医療・福祉の各分野職場において、作業療法士の役割と責任を理解し、その一員として自覚をもって適切な態度・行動がとれる。</p> <p>3) インフォームド・コンセントの上で、対象者から必要な情報を収集でき、適切に評価を実施できる。日々の記録・報告ができる。</p>	<p>①医療法人 中庸会 介護老人保健施設 はやちねの里</p> <p>②医療法人 立青会 なるかわ病院</p> <p>③医療法人 有恒会 こだま clinic</p> <p>④財団法人 広南会 広南病院</p> <p>⑤財団法人 宮城厚生協会 坂総合病院</p> <p>など 計31施設</p>
臨床実習Ⅱ	<p>以下の【3段階】と目標で実施する。</p> <p>1) 【基本的臨床実習2】作業療法の計画立案実施 2年次の基本的臨床実習1を踏まえて、問題や課題、目標を明確にでき、態度や行動を修正し、作業療法計画を実施できる。</p> <p>2) 【総合臨床実習】作業療法の治療実施</p> <p>3) 【就職前実践型実習】作業療法の目標達成</p>	<p>①医療法人 仁泉会 介護老人保健施設 なとり</p> <p>②医療法人社団 愛友会 上尾中央総合病院</p> <p>③独立行政法人 労働者健康福祉機構 東北労災病院</p> <p>④公益社団法人 地域医療振興協会 公立黒川病院</p> <p>⑤NTT東日本東北病院</p> <p>など 計52施設</p>

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

学校は、教員に対する研修の必要性を把握し、専攻分野の実務に関する知識や技術及び授業や生徒に対する指導力等を修得させ、教員の能力及び資質等の向上を図るものとする。

学校は、必要と認めるときは、他の機関や企業等と共同して又は外部の機関に委託して研修を行うことができるものとする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
菊田 正信	東北管理株式会社 代表取締役
渡邊 好孝	医療法人 松田会 教育部長
渡部 達也	株式会社わざケア 代表取締役
三浦 洋平	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 作業療法士

(学校関係者評価結果の公表方法)

ホームページにおいて公表する。

URL :<http://www.tmc.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

ホームページにおいて公表する。

URL :<http://www.tmc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法科) 平成 28 年度 基礎分野										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			心理学	学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など様々な領域の心理学について学び、人のこころの仕組みや行動との関連について体系的な知識を身につけるとともに、人のこころについての客観的な視点を獲得する。	1 年 ・ 通	30	2	○		
○			倫理学	様々な倫理思想に触れることにより、現代に求められる倫理観を養う。また、自分自身の考えを論理的に表現できるようにする。	1 年 ・ 通	30	2	○		
○			教育学	教育学を通して、地域と学校の関係のあり方を考えていく。これにより学校を含めた地域に存在する諸施設が地域とどのような関係を築いていくことができるのか、また、築くべきなのかを自ら考えていくことのできる力をつける。	1 年 ・ 通	30	2	○		
○			社会福祉学	国民の保健医療福祉の推進のために作業療法が果たす役割を理解する。地域社会における諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を身につける。社会福祉分野の中でも障害児・者領域、高齢者領域について、社会保障全般と、医療保険と福祉関連法規について理解する。	1 年 ・ 通	30	2	○		
○			情報処理学	情報化社会の中で、パソコンを日常業務の道具として駆使でき、最小限のアプリケーションを使いこなし、情報処理能力を高めること。文書処理、表計算、電子メールなどの一般的な操作が理解できること。	1 年 ・ 通	30	2	△	○	△
○			工学	運動力学の基礎となる力学の基礎を学び、続いて制御の仕組みや機械の機構による運動の伝達部分の基礎を理解する。また、アクチュエータによって操作される運動系を理解し、現在の介護ロボットの仕組みについて理解する。	1 年 ・ 通	30	2	○		
○			英語	医学英語に慣れ親しみ、英語論文などを臆することなく、読解できる力を身につける。また、論文発表には英文要約をつけることが多く、簡単な英文での文章作成も可能となるよう学習を行う。	1 年 ・ 通	30	2	○		

○			医学英語	リハビリテーション現場でよくみられる疾患や状態、指示に関する単語をある程度理解できるように、単語を交えて対象者の状態を表現できる。国家試験にどのような英語表記が存在するのか知っている。	1年・前	30	2	○		
○			保健体育Ⅰ	運動と健康の科学的・論理的知識を身に着けることで、生涯にわたって心身ともに健康に生活していくために必要な要素を理解することを目的とする。	1年・前	30	1	○		△
○			保健体育Ⅱ	運動と健康の科学的・論理的知識を身に着けることで、生涯にわたって心身ともに健康に生活していくために必要な要素を理解することを目的とする。	1年・前	30	1	○		△
合計			基礎分野 10科目		300単位時間 (18単位)					

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法科) 平成28年度 専門基礎分野										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			解剖学Ⅰ	内臓の構造と全身の骨の形態、関節、筋の構造や働きなどについて正しく解剖学的に理解する。	1年・前	30	2	○		
○			解剖学Ⅱ	人体における細胞・組織・器官(脈管・神経・感覚器)の構造について理解する。	1年・後	30	2	○		
○			体表解剖学実習	骨格、関節、筋の模型を用いたスケッチと相互実習による触察によって、作業療法士として臨床に必要な運動器系の立体構造を理解する。	1年・後	45	1		△	○
○			生理学	身体の基本的な生理学的機能全般について理解する。	1年・通	60	4	○		

○		生理学実習	各実習課題の内容について、実際に計測、データの解析、結果の考察等を行うことによって、人体の生理学的な機能の理解と問題解決能力を養う。	2年・後	45	1		△	○
○		運動学	人体の運動メカニズムをあらゆる観点から理解し、作業療法の基礎となる知識を習得する。また、解剖学・生理学を基礎として、各関節・各部位の機能解剖を理解し、その骨運動・関節運動に作用する筋の特徴を理解する。	1年・通	60	4	○		
○		運動学実習	実習を通して、人の運動・動作の特徴とそれに伴う諸現象を理解する。運動と動作に関して、観察・測定・分析の初歩的手段を体験し、レポートとしてまとめる。	2年・前	45	1		△	○
○		人間発達学	各期・各機能の発達段階と発達課題を一連の原則にそって特徴を理解する。また、その発達評価の内容を理解する。	1年・前	30	2	○		
○		一般臨床医学	各疾患やその病態生理に関心を持ち、診断・治療の最低限の知識を想起できる。また、知識のみならず倫理観を持ち、病態に偏らない全人的な医療を行う姿勢を持ち、自らの健康管理に努め、模範となる。	1年・後	30	2	○		
○		内科学	各疾患の症候と病態生理を理解し、診断・治療・予後の経過を正しく理解でき、日々の診療の中で身近に接する対象者の症状から専門職としての対応を判断し、実施できる。また、検査データ示す疾患の特性を認識する。	2年・通	30	2	○		
○		整形外科学	運動器疾患に特徴的な障害である関節拘縮、筋力低下、疼痛、歩行障害、ADL障害へは、リハ職はその技術を活かし積極的に関わることができることから、運動器の基礎知識を持つとともに、高度な手法および人工関節等手術材料など幅広い理解をする。	2年・通	30	2	○		
○		神経内科学	神経疾患の症候、神経学的徴候の診断方法、神経疾患の生活障害、各疾患の臨床像を理解し、その中から作業療法士として取り組むべきことを模索する。	2年・通	30	2	○		
○		小児科学	小児腫瘍性疾患や極出生体重の事例など心肺機能未熟な状態のケースへの関わりも増え、よりハイリスクな事例も増えてきている。小児疾患の事例に関わる際には、常に発達ということを意識して臨まねばならず、家族への支援も視野にいたした小児疾患の特徴を理解する。	2年・通	30	2	○		

○			精神医学	精神医学の学習を通じて、人の心身の健康状態のあり方を認識でき、また精神疾患の症状に対する治療について正しく理解して、作業療法士としてリハビリテーションを行う際に系統だてて理解する。	2年・前	30	2	○		
○			臨床心理学	心理療法諸派の問題の捉え方、解決方法を学んだうえで、具体的な心理的問題を解決するための力を身につける。また、心理査定法を実際に体験し、その目的と効果を理解する。	1年・通	30	2	○		
○			リハビリテーション医学	総論として疾病治療とリハビリテーション医療の特性、診断と機能評価の関係、特殊な問題として廃用症候群、排尿障害、褥瘡、摂食・嚥下障害を扱う。各論ではリハビリテーション医療の対象疾患について、国際生活機能分類 ICF の生活機能とその障害の側面から学修する。	2年・通	30	2	○		
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションサービス体系の変革はめまぐるしいが、リハビリテーションが掲げた理念、目的に変更はないことを共有し、リハビリテーションを構成している諸領域や施設とその役割、それらを支えている概念を理解し、臨床実習や卒業業務に活かせる知識を習得する。	1年・前	30	2	○		
○			公衆衛生学	社会及び環境がどのように健康と関連するか。生活習慣と疾患に関する最新の疫学的知見、各ライフステージにおける公衆衛生活動など作業療法士として、疾病予防・健康増進の重要性を系統的に学修する。	1年・通	30	2	○		
合計			専門基礎分野		18科目	645単位時間 (37単位)				

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法科) 平成28年度 専門分野										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			作業療法概論	作業療法実践の現状を知ることで、その中で生活と作業との関係や作業療法士の役割を理解する。領域別・病期別の作業療法の過程を学び、リハビリテーションにおける作業療法の位置づけを理解する。また、職業人として職業倫理を高める技術・態度を習得する。	1年・前	30	2	○		

○			基礎作業学	基礎作業学の作業療法の中での位置づけを理解したうえで、各種理論と分析、そして実践的応用を理解する。	1年・後	30	2	○		
○			基礎作業学実習Ⅰ	作業療法で利用される作業活動を経験し、作業活動そのものが持つ特性や人や環境に与える影響を考慮し、対象に応じた作業活動を通じた課題や段階設定が行える。また、グループワークを実施する中で、集団の持つ特性を経験する。	1年・通	45	1			○
○			基礎作業学実習Ⅱ	作業分析によって作業活動そのものが持つ特性や人や環境に与える影響を考慮し、対象者や目的に応じ、作業活動を通じた課題や段階設定が行える。また、作業活動を企画・運営・実行することができる。	2年・前	45	1			○
○			研究法	作業療法領域で研究を行う意義を理解し、その手法についての基本的な知識を得る。特に、“研究”のイメージである量的な研究の存在を知る。	3年・後	30	2	○	△	
○			作業療法評価学総論	近年の作業療法の現状を知り、その中で用いられる作業療法評価の具体的内容や測定機器について理解し、評価のために行う観察、検査、測定、試験を的確に実施する。検査などで得られた情報から、今後の治療にどう役立てていくかを整理し、まとめていく。	1年・通	30	2	○	△	
○			骨格関節筋系測定法	作業療法分野における測定・評価方法（形態測定・反射・ROM・MMT）を正しく理解する。	1年・後	45	1			○
○			身体障害作業療法評価学	身体障害領域における作業療法について、その実践課程を理解する。疾患別に、病態や障害像を理解し、行うべき評価の手順を習得し、目標設定を行うことができる。	2年・前	30	2	○	△	
○			高次脳機能障害作業療法評価学	高次脳機能障害の評価指標の臨床活用について学ぶ。作業療法士が援助する高次脳機能障害者に対する評価の考え方と実践方法を身につけ、臨床実習や卒業業務に活かせるようにする。	2年・前	30	2	○	△	
○			精神障害作業療法評価学	精神障害領域における作業療法について、その実践過程を理解する。様々な評価手段とその手順を習得し、目標設定を行うことができる。	2年・通	30	2	○	△	
○			発達障害作業療法評価学	発達障害における作業療法の理念と役割を理解し、評価の実践過程を説明できるようにする。	2年・前	30	2	○	△	

○		高齢期障害作業療法評価学	高齢者を対象とした作業療法では、身体・精神的な老化現象を踏まえた上で、人生の総括と統合を促進するよう努める必要がある。これに、必要な高齢者の身体・心理・社会的な特徴、評価法の知識を得る。	2年・前	30	2	○	△	
○		作業療法治療学総論	実践における理論と研究の関連を理解し、どのように作業療法で実行するかを決定する方法を知る。	2年・前	30	2	○	△	
○		身体障害作業療法治療学	身体障害領域において対象とする疾患の臨床像と生活機能、障害について理解できる。医学的な治療と作業療法の治療・指導・援助の内容が理解できる。	2年・通	90	6	○	△	
○		高次脳機能障害作業療法治療学	高次脳機能障害の作業療法における実践と事例からアプローチの仕方を学ぶ。	2年・通	30	2	○	△	
○		精神障害作業療法治療学	作業療法の基本的実践論から、疾患・障害別の作業療法の実践について理解する。地域生活支援や司法精神医療、精神系作業療法に関連する理論・技法などを理解する。対象となる疾患の病理、障害像を理解し、作業療法の目的、留意点について理解する。生活環境のアセスメントや支援の方法について理解する。	2年・通	90	6	○	△	
○		発達障害作業療法治療学	各疾患・各障害における作業療法の治療を理解する。発達障害に関わる支援制度を理解し、説明できる。	2年・後	60	4	○	△	
○		高齢期障害作業療法治療学	高齢者を対象とした作業療法では、身体・精神的な老化現象を踏まえた上で、人生の総括と統合を促進するよう努める必要がある。これに必要な具体的な作業療法アプローチの知識を得て、ゴール設定とそれに見合ったプラン作成を行うことを目的とする。	2年・後	30	2	○	△	
○		日常生活活動技術論	日常生活活動の概要を理解し、作業療法に展開できる知識・技術を得る。	1年・後	30	2	○	△	
○		義肢・装具技術論	対象とする障害像に合わせて使用する義肢・装具の臨床での治療的適合方法や動作指導方法を学習する。実習を通じて、義肢・装具の臨床場面での適切な選択や適合治療的介入を行える技術を身につける。	2年・通	30	2	○		△
○		地域作業療法学	地域リハビリテーションの概要を理解し、作業療法において必要な知識を整理する。	3年・後	30	2	○	△	

○			住環境整備・福祉用具活用論	対象者の生活を豊かにし、自立生活に用いる福祉用具について、その種類と機能、特性、選定、適合を学び理解する。医療・福祉制度を加味した住環境整備、実践例を把握する。	3年・後	30	2	○	△	
○			職業関連活動技術論	人にとっての職業の意識を探り、障害者の就労について考える。	3年・後	30	2	○	△	
合計				専門分野 23科目		885単位時間 (53単位)				

(医療専門課程 作業療法科) 平成28年度 専門分野 (臨床実習)

○			見学実習	作業療法士が働く領域及び施設の概要、病院・施設での作業療法士の役割を知り、作業療法士の対象者への関わりについて、具体的な評価・介入場面から理解を深める。	1年・後	45	1			○
○			臨床実習Ⅰ	作業療法士が働く各領域において、その役割を認識し、作業療法士の対象者への関わりを模倣しながら、具体的な評価・介入場面についてのその方法を理解する。	2年・後	135	3			○
○			臨床実習Ⅱ	【基本的臨床実習】臨床実習指導者の指導、監督のもとに作業療法を実践し、その意味を理解する。 【総合臨床実習】習得した知識・技術・態度を融合し、臨床実習指導者の指導、監督のもとに作業療法を実践する。 【就職前実践型実習】就職に向けて、臨床実習指導者の指導・監督のもとに作業療法を実践し、自ら行動する。	3年・通	720	16			○
合計				専門分野 (臨床実習) 3科目		900単位時間 (20単位)				

総合計				54科目		2,730単位時間 (128単位)				
-----	--	--	--	------	--	----------------------	--	--	--	--